

# 釧路南ロータリークラブ会報

第35回 例会報告 2019.4.5 通算1764回

・点 鐘 亀岡会長

・ロータリーソング

「君が代」「奉仕の理想」「四つのテスト」



ソングリーダー 長倉 巨樹彦会員

・入会記念祝

早津 壮史会員 H28.4.1 (3年目)



・会長挨拶



みなさんこんにちは。

第35回母子の健康月間に因んで例会の会長挨拶をさせていただきます。4月に入り雪が解け、少し春が近づいて来たと思いますが、まだ朝晩が肌寒く上着は離されません。皆様も風邪など引かないよう気付けて頂きたいと思います。

5月1日から平成から令和の時代が変わります。令和の意味が発表されましたが意味は万葉集の中から選択し「人々が美しく心寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」と言う意味だそうです。

始めはピンとこなかったのですが意味が分かると、今の日本に求められている世相だと感じられます。

先ほどここに来る途中、車の中でラジオを聴いていたら、大リーグのイチロー選手が3度目の国民栄誉賞を辞退したようです。自分の中で野球人生の終止符を終わった時に頂くかもしれないと語ったそうです。実にイチロー選手らしいコメントですね。

私達もイチローらしい素直な心豊かな人を目指したいと思います。

以上例会の会長挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

## ・幹事報告



- \* RI 日本事務局より 4月のロータリーレートは1 \$ 110円です。(3月同様)
- \* 北海道赤十字血液センターより 3/29の献血実績報告が届いております。
- \* 釧路市民憲章推進協議会より 「市民憲章くしろ」が届いております。
- \* 釧路鶴野支援学校より 平成31年度 入学式のご案内が届いております。
- \* 釧路北・西・東・ベイ・浜中 RC より 4月例会プログラムが届いております。
- \* 根室 RC より 4月例会プログラムおよび会報が届いております。
- \* 米山奨学会より、モンゴルにて7月開催の米山ファミリーの集いのご案内がありました。締切が4月末となっております。詳細につきましては次年度、会長・幹事までお問い合わせください。

各資料は回覧しておりますのでご一読ください。

尚、次週 4月12日(金) 例会後に理事会を予定しておりますので理事者の皆さま、宜しくお願い致します。



## ・本日のプログラム

### 「母子の健康月間に因んで」

担当 ロータリー情報委員会

#### ◆上川原ロータリー情報委員長代理亀井幹事



皆様こんにちは。本日の例会は「母子の健康月間に因んで」です。

いつからこの重点分野が登場したのかを先ずお話をしてから事例の紹介をさせていただきます。

2014年10月RI理事会は、4月を重点分野：「母子の健康月間」としました。5歳未満の幼児の死亡率と罹患率の削減、妊婦の死亡率と罹患率の削減、より多くの母子に対する基本的な医療サービスの提供、保健従事者を対象とした研修、保健ケアの提供、母子の健康に関連した仕事に従事することを目指す専門職業人のための奨学金の支援を強調する月間であります。

#### ロータリーはこんな活動をしています

教育、予防接種、出産キット、移動クリニックなど、ありとあらゆる方法で母子の健康を推進しています。また、女性を対象に、HIV 母子感染の予防、母乳による授乳、病気の予防に関する教育も行っています。

ロータリーによる活動の例：

#### 出産前ケアの移動クリニック

ハイチは、西半球で母子の死亡率が最も高い国。この国で、医療ボランティアと助産師が僻地に住む母と子どもに医療ケアを提供できるよう、[医療機器を搭載したジープ](#)を寄贈しました。

#### 可動式がん検診支援

インドにおける、可動式の癌検診機器一式の提供と、

認識向上を目的とした研修の実施。

## 産科ろう孔の治療

[自宅出産を安全に行う](#)ため、ロータリー会員が300万ドルを投入して5年間の試験的プロジェクトを開始しました。このプロジェクトでは、2005年以来、産科ろう孔で苦しむ女性たちの尊厳と希望を取り戻すために、当初の目標を500人上回る1500人の治療を行ってきました。

「日本の姉妹都市との絆、ブラジルの新生児を救う」これは国際ロータリーのホームページより抜粋して読み上げます。

また、ホームページでは画像、映像などが掲載されておりますので、ご覧になってください。

それでは読ませていただきます。

陣痛がはじまり、妊婦はおびえています。予定日は3カ月も先。一番近い病院は48kmも離れており、生まれても体重は1,000gに満たないでしょう。問題はもう一つ。

病院の新生児集中治療室には保育器が7台しかなく、満員になると赤ちゃんを別の病院に搬送する必要があります。命をつなぎとめたとしても、両親は数カ月も長距離の病院通いを余儀なくされます。

ブラジル・リベイラバレーの病院 (Dr. Leopoldo Bevilacqua Regional Hospital) でも、多くの妊婦が同じような困難に直面しています。設備が不足すると、すでに危険な状態にある新生児をほかの病院に搬送しなければなりません。この影響は、サンパウロ州の高い乳児死亡率に表れています。

「ここには2つの現実があります。私立病院の費用を払える人と、払えない人です。払えない人は、24もの町をカバーしている州立病院まで長距離を往復しなければなりません」。Registro-Ouro ロータリークラブ (ブラジル) のプロジェクトを主導したリナ・シミズさんは、このように話します。そこで同クラブと Registro-Ouro ロータリークラブは、岐阜県中津川の2つのロータリークラブとパートナーとなり、グローバル補助金プロジェクトを実施しました。ロータリアンは172,500ドル(約1,900万円)を集め、新生児の集中治療室に保育器5台を追加。これにより、それまでの倍近い新生児の受け入れができるよ

うになりました。2013年には新生児129名、プロジェクト完了後も毎年、新生児約220名の命を救っています。また、換気装置5台、ビリルビン測定装置1台、ベビーベッド3台、血圧・心拍数モニター5台、新生児黄疸光線治療器1台も設置したほか、住民を対象に出産前ケアのワークショップの推進にも貢献しました。この活動は、医療サービスや出産前ケア・母乳の重要性についてあまり知らなかった遠隔地の妊婦にとって、大きな支えとなりました。

中津川のロータリアンは以前、補助金で困難を経験したことから国際活動の支援を断念していましたが、今回の経験が大きな転機となりました。この変化を導いたのは、レジストロ市と中津川市の「姉妹都市」提携です。

双方のロータリアンは、定期的に交流して友好を深めてきました。だからこそ日本のロータリアンも、自分たちの資金が有効に使われると確信できたのでしょう。日系人で日本語を流暢に話せるシミズさんの存在も、信頼関係とコミュニケーションの構築に大きく寄与しました。

これを読み終えた時、日本で生活していると考え難いことが世界のどこかで起っているということ。私一人ではできないことも、皆様と力を合わせると大きなことができる。私たちが考える普通の生活を、ほんの少しの協力で生活が困難な国の母や子供を救えるということ、改めて考えさせられました。皆様からのもう少しの御寄附で救える命があります。今ポケットに入っている小銭でも長江会計に渡して頂ければ幸いです。

多くの皆様の御協力をお願い致します。

以上、ご清聴ありがとうございました。



## ・次回のプログラム

4月12日(金)

「家庭集会報告」

会場 アクア・ベール 12:30～

担当：クラブ運営委員会

・点 鐘 亀岡会長  
今週の会報担当：早津壮史会員